



## 地球市民の訴え



日本カトリック司教協議会  
「ラウダート・シ」デスク  
秘書

瀬本 正之 S. J.

2015年5月24日(聖霊降臨の主日)に『回勅ラウダート・シ』(以下、『回勅』またはLS)を世に問うた教皇フランシスコは、その続編とも言える『使徒的勅告ラウダート・デウム』(以下、『勅告』またはLD)を2023年10月4日(アッシジの聖フランシスコの記念日)に公にししました。それは、11月末開催予定のCOP28(第28回気候変動枠組条約締約国会議)を前にして、「気候危機」の深刻さと緊急な取り組みの必要性を世界中の善意あるすべての人とともに再確認し、政治と経済と技術がますます一体化するこの世界で影響力を有する「力ある人々」——ことに同会議に会する要人たち——に向けて、狭い意味での国益を超える「人類の未来についての責任」の自覚を訴える地球市民の意思表示だったと言えるでしょう。6章構成の第1章の直前、いわゆる序の最後で、この『勅告』に込められた教皇の明確で揺るぎない思いが吐露されます。

「過去八年で得られた考察と知識は、以前に述べたことをより明確にし、補完してくれます。そしてまた、状況が現在いつそう切迫しつつあるゆえに、わたしは、この文書を皆さんと共有したいと思ったのです」(LD 4)。

8年前の『回勅』は、信仰の光の下、広く環境問題を取り上げ、その問題性を構造的に捉えて深く考察し、冷静さと勇気とをもって、わたしたち人間の所業がその原因である、と認めるよう導いてくれるものでした。まさにわたしたち人間の生き方とわたしたちの社会のあり方こそが問題とされるべきであり、それゆえにまた、理性と信仰の両眼を兼ね備えた全方位的な学びと実践を必要とする全人類・全被造界の救いにかかわる大問題である、と訴え続ける真摯な声が響きます。

『回勅』は、まず、「汚染、廃棄物」を取り上げ、「こうした問題は、使い捨て文化と密接につながっており、そうした文化では、ちようど物がすぐゴミにされてしまうのと同様に、排除された人々が悪影響を被るのです」(LS 22)と指摘し、続いて、「人間として生きるために不可欠な諸条件の多くとつながっている一つの複雑なシステム」(LS 23)である「共有財としての気候」の乱れや不安定化に、また、「人命にとって、また地圏や水圏の生態系の維持にとって、なくてはならないもの」(LS 28)である「水」にまつわる諸問題に言及した後、「生物多様性の喪失」について次のように述べます。

「わたしたちのせいでもはや何千もの種がその存在をもって神に栄光を帰すこともなく、わたしたちにそのメッセージを伝えることもなくなるのです。わたしたちには、そんな権利はありません」(LS 33)。



環境問題が示す自然環境の劣化や悪化の現況は、「ともに暮らす家 (our common home)」である惑星地球で紡がれてきた「生命の織物 (web of life)」を支える「いのちの営み」に深い傷を負わせつつある放埒で過剰な人的介入によるものと受け止められます。進行しつつあるのは、大袈裟でなくまさに、「生態学的危機 (ecological crisis)」なのであり、その「人間の根源 (human roots)」こそが問われなければならないというわけです。



今回の『勅告』では、COP28の主要課題とも言える「気候危機 (climate crisis)」に「こころ」がサブタイトルとされ、もはや「危機」と称さざるを得なくなるほどに激化してきた「気候変動」への「実効性」を「担保」する「具体的」な取り組みが「待ったなし」で求められている、という強い訴えが発せられます。COP28が、「効率的で、強制力があり、監視が容易、という三条件を満たす、拘束力あるエネルギー転換の枠組み」(LD 59)についての合意を形成し、「大胆で、集中的で、全員の約束にかかっているという三つの要件を特徴とする、新たなプロセスの始まり」(LD 59)を画するものとなりますように、との切なる願いが伝わってきます。

教皇は、現状を憂うる善意ある地球市民の一人として、傷つきつつある地球とその皺寄せに真っ先にさらされる弱い立場に置かれた人々への真つ当なケアがなされるよう、訴え続けます。「具体性をもつしかた」で「二酸化炭素レベルを大幅に削減し、間に合ううちに最悪の事態を回避していくこと」を「可能にする」国際政治の信頼性を回復させる

「一面より続き」

「前例がない」「プロセス」(LD 59)を作り上げる「力ある人々」の労苦が、「特定の国や企業の短期的利害よりも、共通善と子どもたちの将来とを考慮でき」、「政治の恥でなく、政治の高貴さを証明」する優れた「戦略家」(LD 60)の奉仕が、今こそ、求められています。

\*「ラウダート・シ」デスクHPもぜひご覧ください。

## 老いや病を喜び、支えていこう



イエズス会司祭

山内 保憲

昨年10月まで6年間ほど、私は上石神井にあるイエズス会ロヨラハウスで生活していた。ご存知の方も多いだろうが、ロヨラハウスは高齢になったイエズス会員のための修道院である。平均年齢は92歳という超高齢共同体である。医療の知識も、介護の経験もない私にとっては毎日が学びであった。

ロヨラハウスで生活している間は、ほとんど外出することがなかった。たまに教会でミサの司式を頼まれると、どうも私の説教は、高齢者介護の話題が多かったようだ。そのためか、ミサの後に多くのかたから介護について声をかけられることが多かった。それまで気付いていなかったが、私たちの周りには、実に多くの介護を受けている人、介護をしている人がいらっしやるということに気付かされた。



赦しの秘跡でも、話題がいつの間にか介護相談のようになってしまうことも度々あった。多くの場合、父や母、夫や妻が病気になる、さまざまな形で弱っていくことに対する戸惑い、そして介護を自分自身で抱え込んでいることの悩みが多かった。特に、認知症の家族との生活には戸惑いが多いようだ。

私自身も、イエズス会の先輩たちが認知症になっていく姿を見てきた。夕方になると落ち着かなくなり、家にも「家に帰る」と言い出すことがよくあった。「黄昏症候群」というのだと看護師が教えてくれた。その日も一人の神父が玄関に行き、「スペインに帰る」というのを引き留めていた。何のためにスペインに帰るのか、と聞けば、「ママに会いに行く」と泣き始められた。無論、94歳の神父の母がご存命のはずはないのだが、ママに会いに行くと言って聞かなくなる。また、別の神父はドイツにいらっしやる妹さんのご家族とZOOMで対面した。年老いた妹の姿を見た神父は、画面に向かって「ママ！ママ！」と叫ばれた。妹さんの顔は確かに神父のお母さんに似ていらっしやることだった。

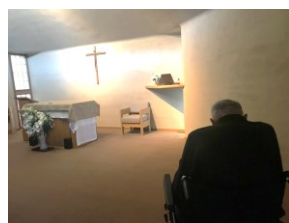
そんな神父たちの姿を見ると、「心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ」(マタイ18・1・5)という聖句を思い出した。世間一般では、認知症になることを恐れ、遠ざけようとする。確かに、認知症の症状は、妹をお母さんと勘違いするような可愛らしいものばかりではない。激しく混乱し、怒りをあらわにされることもある。「弄便」のような行動が始まるとたまったものではない。しかし、それでも、認知症になり、子どものようになり、誰もなりたくない姿になっていくことは、まさに、人間が人間としてその聖性を完成させるために大切な時間なのではないかと感じるようになった。十字架にかかった主イエスと同じように、持っていた力を失い、弱くなることは、私たちをイエスと結びつける大切な時間だと感じようになつた。



世間の人は認知症になることを嫌がり、認知症になった家族を隠そうとする。しかし、私たちキリストを信仰する共同体は、これらの老いや病を隠すことなく、むしろ聖性の完成の時として共同体をあげて喜び、支えていく、そのような意識の変革が求められているように感じる。

近年、「パブリック 図書館の奇跡」や「ニューヨーク公共図書館」という映画を鑑賞する機会があった。「図書館」という場所が、単に本を借りる場所なのではなく、社会的な弱者や文化を支える公施設でもあるということがテーマであった。聖三木図書館は私設の小さな図書館ではある。しかし、認知症の当事者をしばらくの時間だけ見守る「認知症カフェ」として機能する時間を持つといった活動は、これからの超高齢社会を歩む図書館として、考えることができるかも知れない。その時間、いつも介護をしている家族は少し外出するなご気分転換をするといい。聖三木図書館には、「死」や「老い」をテーマにした蔵書も豊富だ。それらの本を読みながら、分かち合いをする時間があっても良いかも知れない。

認知症になった家族を隠すのではなく、彼らを聖なる時間を歩んでいく大切な仲間として、信仰の共同体として見守れば良いのだ。超高齢社会を生きる私たちにとって、意識と発想の転換が求められているのではないだろうか。



# 今季のおすすめ図書

2023年度下半期の新着図書の一部をご紹介します。

	タイトル	著者		タイトル	著者
1	聖トマス・アクィナス	G.K.チェスタトン	21	モン・サン=ミシエルの修道女 四季の食事とていねいな暮らし	L・デュ・ティリー
2	心をたがやす	前田万葉/横田南嶺	22	バロック美術 西洋文化の爛熟	宮下規久朗
3	宗教の起源 私たちにはなぜ〈神〉 が必要だったのか	ロビン・ダンバー	23	50の傑作絵画で見る聖書の世界	ジェラルド・ドゥニゾ
4	日本宗教のクセ	内田樹/釈徹宗	24	ラテン語宗教音楽キーワード事典	志田英泉水編著
5	原始キリスト教の「贖罪信仰」の 起源と変容	大貫隆	25	夢幻	曾野綾子
6	新約聖書の時代 アイデンティ ティを模索するキリスト共同体	浅野淳博	26	現代誘惑論 遠藤周作初期エッセイ	遠藤周作
7	宗教と病 聖書の信仰の観点から	川中仁編	27	遠藤周作 366のことば	遠藤周作
8	旧約聖書神学	K.シュミート	28	光であることば	若松英輔
9	シンボルで味わう典礼・礼拝	宮越俊光	29	永井隆全集 第四巻 書画集	永井隆
10	中世ロシアの聖者伝 (一)	三浦清美	30	苦悩への畏敬 ラインホルト・シュナイダーと共に	下村喜八
11	ラウダーテ・デウム	教皇フランシスコ	31	救い	ベッピ・キュッパーニ
12	わたしはせつに願っていた	教皇フランシスコ	<b>イスラエルパレスチナ問題関連</b>		
13	ローマ教皇は、なぜ特別な存在 なのか カノッサの屈辱	藤崎衛	32	ユダヤ人は、いつユダヤ人になっ たのか バビロニア捕囚	長谷川修一
14	近世日本のキリシタンと異文化 交流	大橋幸泰編	33	ケース・フォー・イスラエル 中東紛争の誤解と真実	アラン・ダーショウ イツ
15	老い 人生の完成へ	H・ナウエン/ W・ガフニー	34	わが親愛なるパレスチナ隣人へ イスラエルのユダヤ人からの手紙	ヨッシー・クライ ン・ハレヴィ
16	霊操	イグナチオ・デ・ロ ヨラ著/川中仁訳	35	パレスチナ〔新版〕	広河隆一
17	中世ヨーロッパの色彩世界	徳井淑子	36	パレスチナ問題とキリスト教	村山盛忠
18	なぜ、こんな目にあわなければなら ないのか がん病理学者が読む聖書「ヨブ記」	樋野興夫	37	アラブとイスラエル パレスチナ問題の構図	高橋和夫
19	中井久夫 人と仕事	最相葉月	38	世界史の中のパレスチナ問題	臼杵陽
20	修道院からモダニズムへ	浅野忠利	39	パレスチナ紛争史	横田勇人
			40	交差するパレスチナ 新たな連帯のために	在日本韓国 YMCA 編



## 聖三木図書館からのお知らせ

最新の情報はホームページ（Facebook）、お電話や留守電メッセージにてご確認ください。  
皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 開館

月～土 11:00～18:00

日 10:00～17:00

休館日 木曜日、国民の祝日、毎月末

※館内カレンダーまたはHPにてご確認ください。

入館時に検温、利用カードを確認します。

「当館所蔵資料の閲覧」以外での閲覧席のご利用は  
お断りしております。

### 貸出

#### ・郵送貸出も行っています

お電話またはホームページの郵送貸出フォームから  
お申込みいただけます。発送は着払いのみです。

#### ・貸出延長

返却期限内で、予約の入っていない資料に限り、  
1回のみ延長できます。（新着図書はできません）  
開館時間内にお電話またはカウンターのみで受け  
付け、手続きした日から3週間延長します。  
※返却日を過ぎると延長はできません。

#### ・返却した資料を続けて借りることはできません

返却日の翌日から数えて14日間は同じ資料を借  
りることはできません。  
（例）3月1日に返却→3月16日～貸出可能  
利用者が平等に資料を利用する機会を確保するた  
め、ご理解とご協力をお願いいたします。

### 返却

開館中：カウンター 閉館中：1F 返却ポスト

※郵送・宅配での返却も可

### 問い合わせ

お電話またはホームページの問い合わせフォームよ  
り受け付けています。

資料の所蔵確認、調べている事柄に関連する資料の紹  
介や、調べ物のお手伝いをすることもできます。  
質問内容によっては回答までにお時間を頂戴する場  
合やお答えできない内容もございますので、ご了承く  
ださい。

資料の所蔵確認は、館内検索機・蔵書検索サイト  
（OPAC）にて検索が可能です。サイトはホームペ  
ージからご覧いただけますのでご利用ください。

### 利用カードの申込・更新

当館は会員制の専門図書館のため、入館・ご利用には  
会員登録が必要です。

「聖三木図書館利用カード」（有効期間1年）の新規  
登録及び更新手続きは、開館時間内に館内カウンタ  
ーで、または来館せずに行うこともできます。  
来館せずに登録をご希望の方は、ホームページの「利  
用登録」をご確認の上、新規会員登録フォームをご入  
力いただくか、お電話にてお問い合わせください。

【年会費】※すべて税込価格です。

一般会員 2,000円

賛助会員 5,000円・10,000円

\*1日会員 500円（貸出不可）

当日のみ、当館所蔵資料の閲覧・複写の利用が可能

登録の際、免許証・保険証など（学生の方は学生証）  
をご提示いただきます。

利用カード紛失やお忘れの場合は100円（税込）の  
再発行手数料をいただきます。

上記会員区分以外に、イエズス会員、カトリックの司祭・修  
道者・神学生の会員区分は継続いたします。

※2024年4月より会費価格の改定を検討しております。  
決まり次第、掲示・ホームページでお知らせいたします。

聖三木図書館報『みき』第16号

\*\*\*\*\*

イエズス会聖三木図書館

〒102-0083

東京都千代田区麹町 6-5-1 岐部ホール 2F

TEL: 03-3262-0364

ホームページ:

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_seimikibun/](http://www.jesuits.or.jp/~j_seimikibun/)

題字: Sr. 北爪悦子(師イエズス修道女会)